

戦国の世を生きた二人の人生とは。

仲むつまじかった二人の愛は、桜にはなかった…



お江とは
(小督とも、後にお江与)
崇源院(すうげんいん)



崇源院像(京都市・養源院蔵)

近江国(滋賀県・長浜市)小谷城城主の「浅井長政」と織田信長の妹「お市」の三女として天正元年(1573)に生まれる。姉は「お茶々(淀君)」「お初」の3人姉妹で、父・浅井長政は信長(伯父)に攻められ自害。長男・万福丸は処刑され、次男・万寿丸は出家を命じられた。母と三姉妹は、伊勢上野城・安濃津城・清洲城で過ごす。信長の死後、お市は柴田勝家に嫁ぎ、三姉妹も越前・北ノ庄城に暮らす。秀吉との戦いで勝家とお市は共に自害し、残された三姉妹は秀吉に保護された。お江、最初の嫁ぎ先は尾張大野・六万石の城主「佐治一成」だったが、織田信雄と共に徳川に味方したと秀吉が怒り、離縁させられ、短い結婚生活であった。二度目の嫁ぎ先は秀吉の養子「秀勝」だが、新婚まもなく朝鮮出兵し、戦地で病死。そして三度目の嫁ぎ先は徳川家康の三男「秀忠」。二代將軍の正室となり、徳川幕府・三代將軍家光の生母となったお江は、織田・豊臣・徳川と三覇者に翻ろうされ、波乱に満ちた人生を送った。寛永3年(1626)江戸城にて享年54歳で死去。法号・崇源院。



「お江」さん最初の嫁ぎ先はこんな町。

【大野城】おおのじょう

地図・F-5

大野とは

荘園制度の頃、この地は大野頼清が治め、大野庄ができた。承久の乱後は、大佛氏・金澤氏がこの地を治め、兵糧所(兵士の食料基地)となるなど経済的発達に伴い、このころ神社仏閣が多くなる。室町時代より、産業文化が芽生え、江戸時代に入ると海運業・醸造業・木綿・大野鍛冶等が発達し、多くの豪商を生み出す事となる。明治時代に入り、大野村となり、明治22年には大野町に。昭和29年には常滑市に編入し、常滑市大野町となる。交通・通信において、明治7年には、大野郵便局開設。明治45年には、愛知電気鉄道が大野町～伝馬町間を開通するなど、大野の発達は他地区より早く始まった。名古屋からも至便であり、また、古くより潮湯治として有名で、歓楽地として町は賑わった。



与九郎一成とは
(信時、為吉、為次とも)



佐治成像(佐治神社)

初代・大野城主「佐治駿河守宗貞」、二代「上野守為貞」、三代「八郎信方」、そして四代「与九郎一成」は、永禄12年(1569)信方の嫡男として生まれた。弟は秀休。父・信方(妻は於犬・織田信長の妹)は信長に協力するも、伊勢長島の戦にて22歳で討死。与九郎一成は天正11年(1583)浅井長政とお市の方の三女「お江」を妻とした、しかし豊臣秀吉に引き裂かれ短期間で離縁となる。その後、一成は大野城を退去し、安濃津城主の伯父・織田信包の家臣となる。後に渡辺小大膳の娘と再婚。一男三女を儲ける。嫡男・為成は弟・中川秀休の養子になる。一成は剃髪して巨哉と号す。妻は後に死別。慶長17年頃・一成は信長の妹「於振」と再々婚。寛永11年(1634)京都にて享年65歳で死去。母於犬の方の菩提寺・竜安寺(京都市)に一成、弟・秀休、於振の墓が並んでいる。

大野佐治とは

14世紀中頃、知多半島へ進出した一色氏は青海山に大野(宮山)城を築く。大野湊・伊勢湾の海運など知多半島の実権を握るが、後に勢力を失墜。室町時代後期に、近江国より移住した佐治駿河守宗貞が、主家の内紛について大野城主となる。



佐治神社

地図 F-5

佐治家の法要は城から一段高い所に佐治神社があり、毎年4月中旬、佐治菩提寺・齊年寺の住職を招き、子孫や地区関係者がそろい、法要を営む。

佐治氏は、大野・内海を拠点に半島西部や大野衆・佐治水軍として伊勢湾の海上交通を掌握し、宗貞の後、四代続く。尾張の織田信長が台頭してくると佐治氏は信長に属し、三代信方は信長の妹・於犬の方を正室を迎えた。元亀2年(1571年)5月、信長に従って伊勢長島の一方向一揆攻めに出陣した信方は、一揆方の反撃に遭って22歳で討死。一成と秀休の二人の男子をもうける。四代一成は秀吉のすすめで、従姉妹でもある「お江」を正室とする。織田家の一族として、秀吉から優遇されたが小牧・長久手合戦において、秀吉方と家康方の勢力争いに巻き込まれ、大野城を追われ、ここに大野佐治家四代の歴史は終わる。